

# 川・人・ハッピー大作戦 ～大手川の生物調査と環境作り～

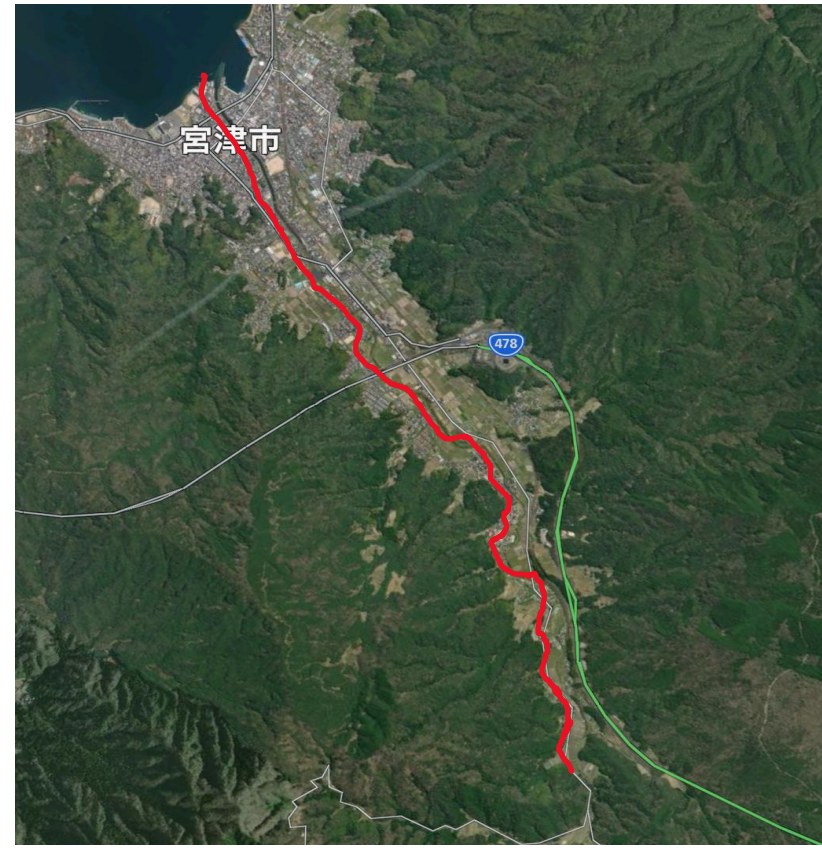
京都府立宮津天橋高等学校フィールド探究部

(1年) 新井滉太郎、井笹大己、井上玄希、日下和羽、小池遼馬、小西泰志、徳田孝一郎、西原幸佑、長谷川直海哉、真下大護、松本蒼生、村尾暖、安田悠人、山田兼佑

## 大手川の概要

- 場所** 宮津市街を南北に縦断  
**流域面積** 27.6km<sup>2</sup>  
**川の歴史**  
 : かつては宮津川と呼ばれていた  
 : 宮津の物流の要として使われた  
 : 近世に城が築かれ現在の名前に

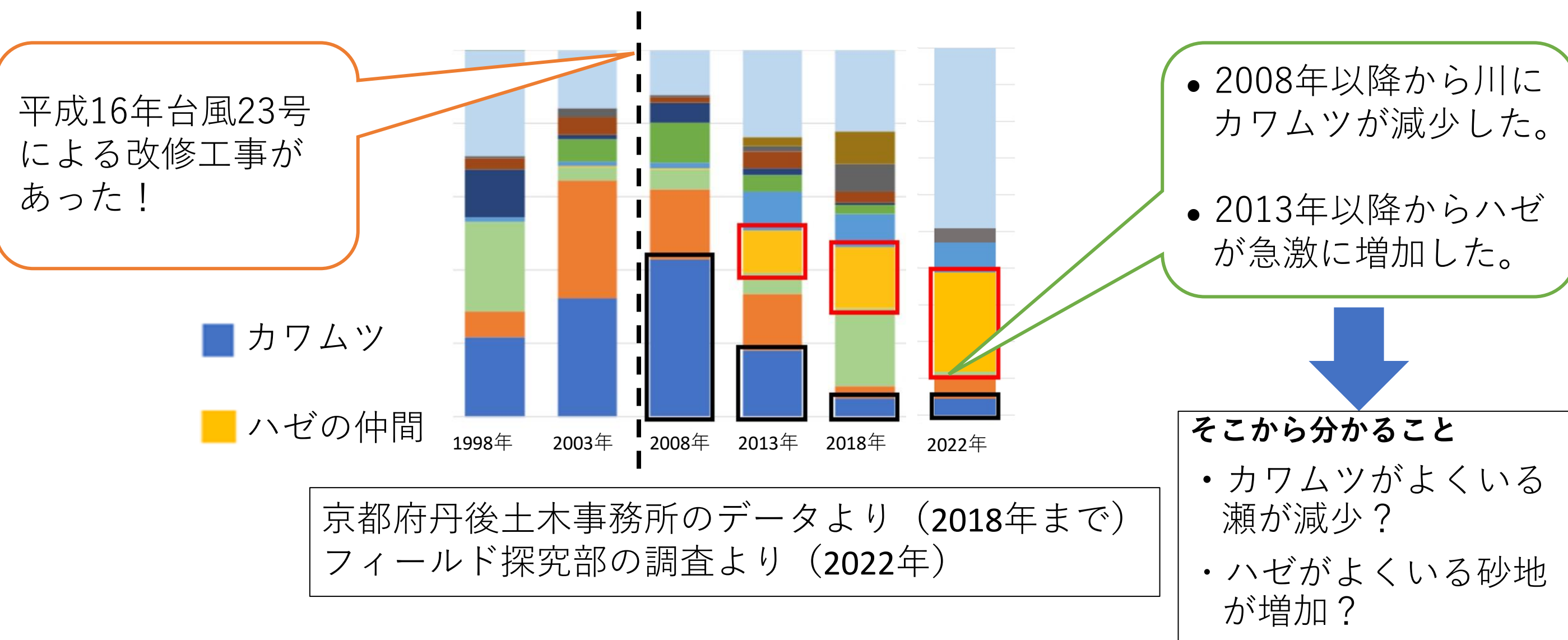
- 上流の様子** : 川底はゴツゴツとした岩場  
 : 生き物が隠れる茂みが多い  
**中流の様子** : 川底は砂場と岩場が混在  
 : 現在親水公園を改良作業中  
**下流の様子** : 浚渫工事によって水深が深い  
 : コイなどの大きな魚もいる



## 仮説

私たちは、台風23号の水害を受けた大手川の河川改修によって、流域住民は氾濫による危機感から解放されたが、川への意識が遠のいてしまったのではないかと考えています。

## ①大手川での生物調査



## ②近隣住民へのアンケート

- ・砂が溜まっているところが増えた
- ・昔は川で近所の子供たちが遊ぶのが当たり前であり、今と違ってフナやナマズなども生息していた
- ・昔から住んでいるお年寄りはみんな大手川が大好き
- ・行政には堤防の手入れや、砂上げなどをして欲しい

### 分析結果

- ・河川改修によって住民の川に対する当事者意識が低下してしまった
- ・子供達には川と親しんでもらいたいと思っている
- ・昔と比べて川の環境に変化を感じている

## ①、②より

河川改修が生態系に影響を与えた可能性が明らかになり、住民の川への意識も変化していることが分かった。

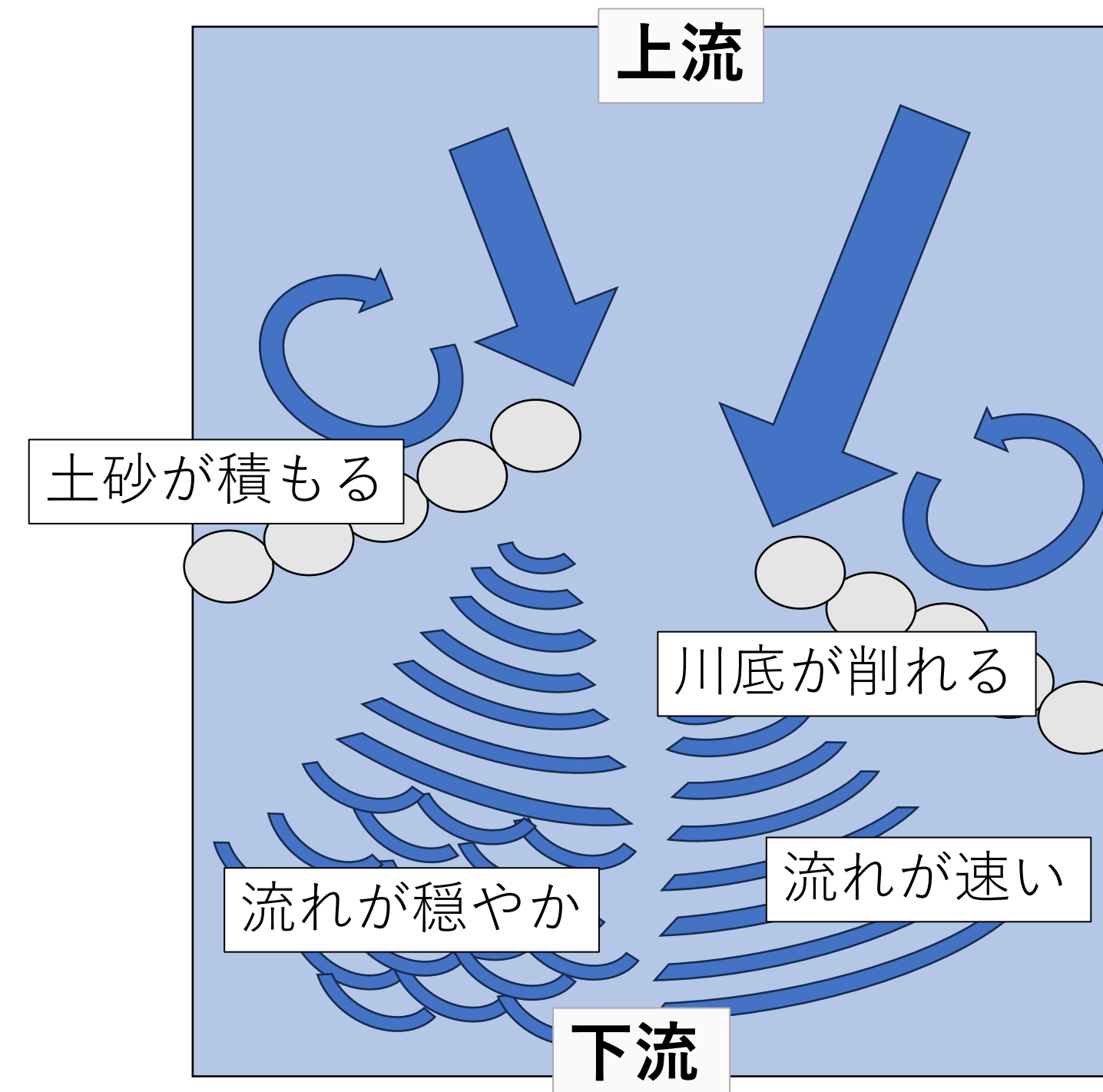
- ・生物多様性を保全するための環境づくり
- ・住民の意識高揚のためのイベント開催

## 川の環境づくり

滋賀県立大学瀧教授の協力でバープ工を作成

※バープ工とは川の流れを土嚢等でせきとめることで、人工的に洲を作り出したり川の流れに変化をつける工法

多様な生物の棲みつく環境を、私たちにも作り出せる！



## 親水公園の再生

宮津の子供達が大手川を知り、遊ぶ場所が必要と考え、長らく放置されていた親水公園に注目した。そして、公園を起点として川に親しむきっかけを作り、

川が昔みたいに身近な存在に、そして生活の一部となることを目指す！

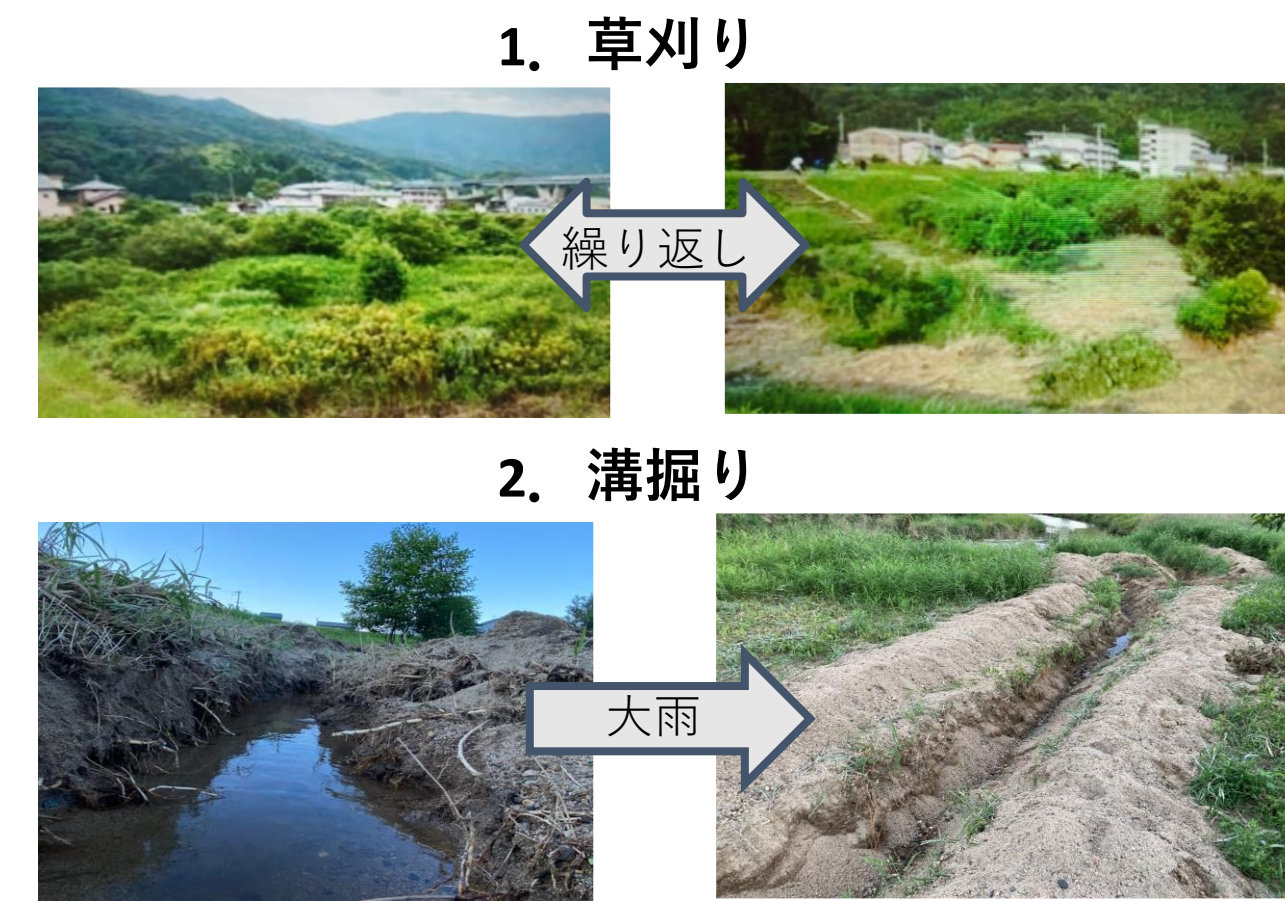
2004年 改修工事直後



現在



原因  
改修工事で川の流れが緩くなり、砂が堆積



親水公園に子ども達の遊び場を作るために地域の人と整備をするも、大雨で土砂がたまって振り出しに戻った。維持するためには、専門家などの様々な人たちから知恵を借りることが必要。私だけでは川を再生するのは不可能だと分かった。

## 地域に学びをシェア

- ・活動を記事にまとめ広報誌で特集
  - ・宮津市の広報担当の職員、自治体を通じて8000世帯の市民に学びを配布
- 地域に川の楽しさや活動の意義を伝え、市民に協働を呼びかける。



## 今年度の活動① 私たち主催の川イベント



1. 上宮津自治会と『川の学校』に参加して下さった地域の方々と大手川の生き物調査を実施した。  
参加者：上宮津地区の5歳～80代
2. 宮津市教育委員会と魚獲りや川の流れに身を任せたり、川遊びをすることで川の楽しさを体験してもらった。  
参加者：地域の小学生：12人



魚を食べている子ども達

## 今年度の活動② 親水公園の大規模改修

池のイメージ

★施工に当たっての注意点

- ・池上流部の植生は残す
- ・湧水からの導水路は湧水位置確認が必要
- ・池の水深は20~30cm
- ・池の法面勾配は概ね1:2とする
- ・池の形状は自然な形状を心がける
- ・掘削の際に水制に当たった場合、水制は撤去せず残す

★樹木について

- ・位置は再確認のこと
- ・2本は池を維持するため根本は残す
- ・残りは池の範囲内は伐採し、その他は根本だけ残す

象の鼻  
天狗の鼻

水路への土砂の浸入を防ぐ仕組み

## 川の再生のために…

- ①親水公園の環境維持、改善
  - ・造成したビオトープの生物調査や水辺の環境作り
  - ・行政や地域との協働で、環境整備や利活用を促進
- ②川でのイベントの継続、拡大
  - ・イベントを通してさらに多くの人々に川の魅力を発信
  - ・安全面の確保など、これまでの課題を改善していく
- ③地域との連携の継続、強化
  - ・先人から学び、私たちが実践、さらに下の世代へ伝える
  - ・高校生・地域・行政がそれぞれの長所を生かした活動を行う